

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 54人

② 算数 54人

#### 5 留意事項

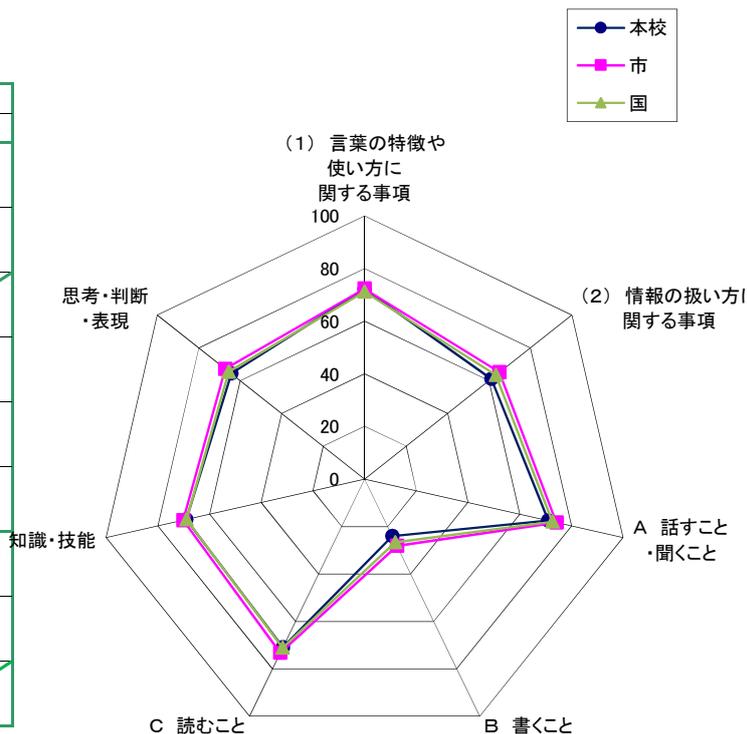
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立宮の原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	72.2	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	61.1	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	71.0	74.2	72.6
	B 書くこと	24.1	28.2	26.7
	C 読むこと	71.0	73.3	71.2
観点	知識・技能	69.0	70.2	68.9
	思考・判断・表現	64.3	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



### ★指導の工夫と改善

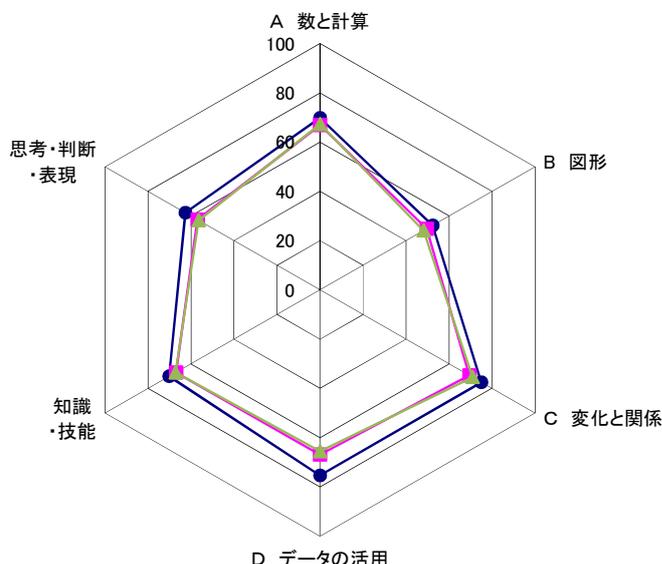
分類・区分	本年度の状況	
	○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、全国平均を1ポイント上回った。 ○基本的な音読み訓読みの漢字、熟語に使われる漢字については定着している児童がやや多い。 ○日常よく使われる敬語については、全国平均を5.4ポイント上回り、無回答率も3.7%と低かった。 ●漢字の送り仮名に関しては、文の中で正しく使うことができない児童が多かった。	・読み方や字形、同音異字や同訓異字に注意して繰り返し学習を継続する。 ・朝の学習等を活用して漢字の小テストを行うことで、言語に関する知識の定着を図る。 ・日常生活の中で、文や表現に応じた漢字や言葉を適切に使えるよう、様々な学習活動で文や文章を書く機会を設定する。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、全国平均を2.3ポイント下回った。 ○原因と結果など情報と情報との関係については、正しく理解し選択できている児童は全国平均と同程度であった。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを問う問題では、正答率が4.6ポイント下回っていた。	・情報と情報を関連付けて理解する力を養うために、情報の関係性を図化したり、表現の型を用いたりするようにさせる。また、自分の考えや書いた文章を他者と比べたり、話し合ったりする活動を多くする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均を1.6ポイント下回った。 ○インタビューの内容について質問をした理由として適切なものを選択する問題については、全国平均を2.3ポイント上回った。 ●目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかを問う設問では、全国平均を3.5ポイント下回った。	・自分の伝えたいことを決められた文字数で伝えるために、そのときの目的や相手に応じて、必要な資料は何かを取捨選択できるように、今後も継続して指導する。 ・各教科や学級活動、委員会活動などの話し合い活動に積極的に参加し、自分の考えを分かりやすく伝えるよう意識させる。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均を2.6ポイント下回った。 ●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを問う設問の平均正答率は、全国平均を2.6ポイント下回った。決められた文字数の中で、理由や根拠を明確にし筋道を立てて文章を考えると、という応用的な部分に課題がある。	・感想文や振り返りを書く活動では、書くことの目的や意図を明確にすることで、相手に伝えたいことをはっきりさせるように指導する。 ・字数を意識して文章を書く活動を取り入れていく。 ・自ら進んで書きたいと思うような条件作文等に取り組みせ、段落や内容の条件がある意見文が書けるよう、指導していく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均を0.2ポイント下回った。 ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを問う設問では、全国平均を4.8ポイント上回った。 ●目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかを問う設問では、全国平均を6.9ポイント下回った。	・説明文を読んだ後に、文章の要旨や筆者の主張を自分の言葉でまとめたり、考えに根拠や理由を付けて自分の考えや感想を述べたりする活動を多く取り入れる。 ・総合的な学習の時間等において、自分の意見を裏付ける資料を探し、選ぶ活動を行う。 ・多くの読み物資料に触れさせることで、登場人物の心情を捉える力の向上を図る。

# 宇都宮市立宮の原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	69.8	66.9	67.3
	B 図形	52.3	49.6	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	75.0	69.4	70.9
	D データの活用	75.3	66.9	65.5
観点	知識・技能	70.2	67.0	67.2
	思考・判断・表現	62.7	57.0	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、全国平均を2.5ポイント上回った。 ○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る設問の正答率は83.3%と、全国平均を7.6ポイント上回った。 ●一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をする設問の正答率は72.2%で、全国平均を8.6ポイント下回った。</p>	<p>・授業をはじめ、朝の学習や家庭学習等で計算スキル・プリント等を活用し、基本的な計算の仕方についてさらなる定着を図る。 ・日常生活の問題の解決のために必要な数量やその関係を捉える活動を取り入れ、事柄や関係を文で書いたり、図や式に表したりすることで数量的確な処理の仕方を身に付けさせたい。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、全国平均を4.1ポイント上回った。 ○示された場面を解釈し、正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる設問の正答率は、94.4%と理解が図られている。 ●示された場面を解釈し、正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる設問の正答率は、25.9%と半数に満たず、理解できていない児童が多い。</p>	<p>・図形の定義や性質についての理解を深めるために、復習を徹底する。 ・学習した図形を実感的なものとして捉えられるよう、実際に図形を見せたり作ったりするなど、視覚的かつ体験的な活動を多く取り入れていく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、全国平均を4.1ポイント上回った。 ○二つの数量の関係が比例の関係ではないことを問う設問の正答率は、98.1%と全国平均を9.6ポイント上回っており、理解が図られている。 ●二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の求め方を記述する設問の正答率は、55.6%と理解できていない児童が多い。</p>	<p>・問題文を丁寧に読み取り、問われている状況を整理し理解することの指導を継続していく。 ・伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、それらの関係をつかんだり、表や式を用いて変化の特徴を捉えたりできるように復習をする。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、全国平均を9.8ポイント上回った。 ○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る設問の正答率は83.3%と、全国平均を7.6ポイント上回った。 ●示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフの違いを、言葉と数を用いて記述する設問は、全国平均を上回っているが、正答率は68.5%で、データの読み取りに課題が見られる。</p>	<p>・他教科と関連させるなど様々な場面で、表やグラフを読み取る活動を取り入れ、目に触れる機会を多く設ける。 ・グラフや資料の内容を正確に読み取ることができるよう、継続的に丁寧に指導していく。</p>

## 宇都宮市立宮の原小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○全体的にどの設問に対しても肯定的な回答が多く、物事を前向きに捉えている児童が多い。「学校に行くのは楽しいと思いますか」という設問には、ほぼすべての児童が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と肯定的に回答しており、学校生活の満足度が高いことが伺える。また、「友達関係に満足していますか」という設問には、100%の肯定的回答であった。今後も、児童にとって楽しく満足できる学校にしていけるように工夫していきたい。

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という設問には、肯定的回答が100%であった。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問には、「当てはまる」と答えた児童の割合が、83.3%で全国平均を33.4%上回っていた。授業を通して児童との信頼関係をより築いていけるようにしていきたい。

○「自分にはよいところがあると思いますか」の設問に「当てはまる」と答えた児童の割合が63.0%で全国平均より21.0%上回っている。常に明るく前向きな本学年の児童の傾向を示していると思われる。今後も良いところを認め、励まし伸ばしていきたい。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」や「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の設問に対して「当てはまる」と答えた児童の割合が全国平均よりもとても高く、友達と協力したり、話し合ったりして問題解決につなげていく力を伸ばしている様子が伺える。

●「新聞を読んでいますか」「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」「読書は好きですか」という設問には、肯定的回答がやや低かった。学校の図書室を効果的に活用しながら、読書の機会を増やしていったり、家庭への呼びかけを行ったりしていきたい。

## 宇都宮市立宮の原小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
楽しい授業・分かる授業の推進	課題提示、教材、板書、授業の展開を工夫したり、一人一人のよさを伸ばす言葉かけや支援を行ったりして、楽しく分かる授業の展開に努めている。	「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が94.5%、「算数の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が83.3%で、どちらの教科においても全国・県の平均より高くなった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」や「家庭学習カレンダー＆振り返りカード」を活用したり、年間3回「家庭学習強化週間」を実施したりし、家庭と連携して目標時間や内容を意識した家庭学習の習慣化を図っている。	「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が81.5%で、全国・県の平均よりも高くなった。また、「学校の授業以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1日どのくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」の質問に1時間以上と回答した児童の割合が、92.6%で全国・県の平均を上回った。
対話的な活動から学びを 実感できる学習活動の工夫	「自分の思いや考えをもつ子ども」「進んで伝え合い、学び合う子ども」の育成を目指し、対話的な活動を積極的に授業に取り入れ、主体的に学び合おうとする授業を目指している。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の質問に肯定的に回答した児童の割合が92.6%で、全国・県の平均を大きく上回った。